

僕たちがあまり感じていない不自由さ

玉野市・日比中2年 久富 康平

体に障害がある方も不自由さを感じないで楽しむことができるような砂浜づくりをしているプロジェクトがあることを僕はこの記事で知った。

玉野市の渋川海岸は僕の自宅から近く、海開きをする夏は県外からの海水浴客も多い。

夏のビーチスポーツやシーズンオフにもビーチサッカーなど数々のスポーツができる美しい砂浜で、僕も段差のある階段を下りて砂浜で遊んだことがあり、この記事にとっても親しみを感じた。

砂浜沿いはスロープなどの設備はまだ充実していないので写真のように車いすで移動するのは湿気がある細かい砂が車輪にはりつき、地面に凹凸があって困難だと思う。

海岸というと、マリンスポーツのイメージがあるが、実際は季節を問わず平日も休日もウォーキングをしている人が多く、高齢者をよく見かける。

僕の祖父母もたまに渋川海岸でウォーキングをしている。僕に会いに来たついで

でなのか、ウォーキングのついでに僕に会いに来るのかはわからないが、高齢者にとっても砂浜のウォーキングに不自由さがないか心配だ。
幅一・八メートル長さ五十メートルの特殊なマットを砂浜に敷いて改良点を考え、マットは今後イベントでの活用や貸し出しを検討されている

車いすで安全に

環境整備
移動用マット試す

誰もが安全に砂浜を、車いす利用者で車いす生活をしている藤原智貴さん(47)が、岡山市中区国富で代表を務める、競技で訪れる海外のビーチはスロープやマットが整備されているのに対し、国内では車いす利用者が気軽に遊べる海辺があまりないことから立ち上げた。



渋川海岸でビーチマットの使用感を確かめる藤原さん

藤原さんら4人はこの日、購入したマット(幅1・8m、長さ計約50m)の一部を広げ、車いすで進んだり、歩いたりして使用感を確認。マットは砂がかかっても隙間から落ちる特殊な構造だが、砂浜の凹凸が多いと車いすが動きにくい。そのため「表面をならしてから敷く方がいい」といった注意点を話し合った。今後、イベントでの

2021年8月3日付 山陽新聞

れているのか、補助する人がどんな環境を整えているのかを学習できる良い機会だと思う。

岡山県が最初に導入した点字ブロックは目が不自由な方にとって必要不可欠なものだが、よく自転車や自動車、荷物などが無造作にのっているのを僕は街でよく見かけ、それを必要な方が活用できていないのを残念に思っている。

普段の生活で、僕らが不自由に感じていないことも、不自由さを感じている方の意見を知って、どう工夫改善したらよいか学習できると思うので、その機会を見逃さないで一緒に考えていく事が大切だと僕は思った。

寸評

自分たちが「不自由さ」を感じていないところで、障害がある人は「不自由さ」を感じているという事実に関心し、共に改善策を考える機会にと前向きな気持ちを表しています。